

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	地球規模の気候変動にともなう異常気象と 自然災害に対する地域社会の対応の国際比較研究				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	孫 暁剛
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	湖中 真哉
		所属・職名	国際関係学部・助教	氏名	小泉 佑介
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	孫 暁剛

講演題目	地球規模の気候変動にともなう異常気象と 自然災害に対する地域社会の対応の国際比較研究
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>近年、地球規模の気候変動にともなう異常気象と自然災害は世界各地で多発し、静岡県内でも被害が増加している。スマートフォンや SNS の普及によって世界各地の被災状況がリアルタイムで日本に伝わり、国際問題や人道支援に積極的な大学生から高い関心が示されている。しかし、災害に対する捉え方は従来の途上国と先進国の枠組みのなかでインフラ整備の違いや経済格差から考える傾向がたつよく、地球規模の課題である異常気象による災害の共通性と、災害に対する地域社会の社会的・文化的な対応を相対的に理解する視角が欠けている。本研究の目的は、静岡県内をはじめ、アジアとアフリカで発生した異常気象と自然災害に焦点を当て、災害人類学・地域研究・人文地理学の手法を用いて、コミュニティと個人々の災害認識・経験・対応を明らかにする。その上で、学生実習やフィールドワークの授業を通して、身近な災害と世界各地の災害とを比較し、地球規模の課題に対する共通認識を深めることである。</p> <p>研究成果として、まず、静岡県内では 2022 年 9 月に発生した台風 15 号による被害や牧之原台地で 2021 年と 2022 年に発生した突風・竜巻被害を調査し、海外ではアフリカのケニア山における温暖化に伴う氷河の縮小による水環境の変化が山麓の農業に与える影響を調査し、アジアではインドネシアのスマトラ島にて泥炭地火災に関する調査を行った。次に、調査の結果をグローバルとローカルスケールの関連、災害に対する地域社会の脆弱性とレジリエンス、そしてコミュニティ防災の観点から比較を行った。そして、それぞれの教員が担当する「災害人類学」や「フィールドワーク」や「現代東南アジア論」の授業において、調査の結果を学生に共有するとともに、総合討論などを通して、地球規模な異常気象と自然災害の共通性と、それに対する地域住民の備え・認識・災害対応の違いと、災害弱者と災害復興のあり方について理解を深めた。</p> <p>今後の展望として、異常気象と自然災害に関する国際比較の枠組みの理論化と、地域社会の潜在力を活かした災害対策のあり方を検討し、防災と国際協力への貢献を目指したい。</p>